

身近な自然を活用した環境教育ティーチャーズガイド プログラム一覧

プログラムタイトル	主な活動	フィールド	活用する 主な自然
『ヒートアイランドと緑地の関係』	・緑地の内外での温度測定 ・測定データの検証と解析 ・ヒートアイランド現象の考察	都市緑地・市街地	緑地
『つながる土』	・いろいろな種類の土の調査 ・堆肥づくりの現場の見学 ・土づくりの体験 ・経過の観察	都市緑地・校庭	緑地・土・土壌生物
『学校に生きものを呼ぼう』	・身近な生きものの生態観察 ・生息環境の調査と計画づくり ・生きものの生息環境づくり	都市緑地・校庭	植物・水・鳥・昆虫
『人が運んだ生きものたち』	・由来のある樹木や植物の観察 ・人の生活と植物の関係についての調査 ・外来種と在来種についての考察	都市緑地(新宿御苑)並木道	街路樹・植物
『考えよう“外来種”』	・外来種の観察と調査 ・外来種についての情報収集と考察 ・グループでのディスカッション	外来種の生息地	外来種と在来種 その生息する環境
『鳥を通して地域を見る』	・野鳥の生息環境の調査 ・野鳥のふんの調査 ・渡り鳥の観察と渡る先の地域の学習 ・野鳥と人とのトラブルの考察	里山、校庭、市街地	野鳥
『作ろう！学校ネイチャーセンター』	・身近な生きものの生態観察 ・ネイチャーセンターの見学と展示方法の検証 ・身近な自然の調査と展示づくり	ネイチャーセンター・学校周辺	植物・鳥・昆虫ほか
『私の中の“自然”を探る』	・自らの自然観のふりかえり ・自然に働きかける作業 ・自然とはどういうものかの考察	里山など	管理作業を要する自然

重視度：◎>○>△

おすすめポイント	伸ばしたい能力											時間数の目安	掲載ページ
	問題・課題を見つける能力	原因・結果を予想する能力	調査の方法を考える能力	データを記録し整理する能力	データから特徴を見つける能力	論理的に自分の考えをまとめる能力	他者とコミュニケーションする能力	相手を理解し評価しあう能力	発想を形にする能力	共同で作業を進める能力	社会や環境を認識する能力		
都市部で問題になっているヒートアイランド現象を自らの測定で認識します。グループでの測定作業やそのデータの解析を通じ、日常生活との関わりを考えます	△	○	○	○	◎		△				◎ △	10時間程度	P16～21
落ち葉が土に変化していく過程をじっくりと観察する中で、物質の循環やそこに関わる生きものの関係、土の性質の違いなどに気づき、目を向けていきます。		◎	○		○	△	△			○ ◎	△	10時間以上 土づくりは 長期間	P22～27
身近なところでどんな生きものがいるのか注目し、どんな環境を好み、どんな生態をしているか調査していきます。その上で、生きものが棲みやすい環境とはどういうものか、自ら計画して環境づくりにチャレンジします。		◎			◎	△	△		○	○	○ △	10時間以上 環境づくりは 長期間	P28～33
身近にある街路樹の由来や歴史を調べること、外国からの植物を受け入れてきた歴史と意味を知ります。その上で、原産地の文化や自然について目を向けていくこともできます。	○		△		△	◎	○ ◎				○	10時間程度	P34～39
外国から持ち込まれた生きものの観察を通して、もともとあった生態系や生きものについて目を向けます。外来種による影響や、その歴史を学び、生きもの的人為的な移動について考察します。	◎			△	△	◎	○ ○				○ △	8時間程度	P46～51
人の生活空間で生きる野生生物（野鳥）に視点を合わせ、人間社会をふりかえります。普段はあまり意識しない問題点や、見えていなかった生きものと人とのつながりに気づきます。	◎		△	○	○	○					◎ △	各8時間程度	P52～57
調べたことや集めたものをどのように相手にわかりやすく伝えることができるか、ネイチャーセンターなどの展示手法に学びます。自ら展示物を作る中で、今まで見えていなかった多く発見があります。			△	△	○		○ △	◎ ◎		◎	○	10時間程度 展示は長期間	P58～63
当たり前のように感じている“自然”についてふりかえり、直接自然に働きかける体験を通してより深く考えていきます。自然に手を入れていくことの意味や重要性を理解していきます。	○	△				◎	○ △			△ ◎	○	12時間程度	P64～69